

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 「数理的システムデザインに潜む離散構造の研究とその応用」

2. 個人研究者名

神山 直之（九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 教授）

3. 事後評価結果

数学・数理学が社会に大きく寄与する「計画」の役割、すなわち数理技術による社会的課題に対する制度構築や計画立案の方法について研究・応用を行った。中心的な課題として、資源のより良い配分を目指す「割当問題に対する基盤技術開発とその応用」、および社会における人やものの流れの効率化を目指す「人・ものの流れの最適化技術の開発」の2つを据え、研究に取り組んだ。

学会等で複数の賞を受賞し、学術的に顕著な成果を挙げているのみならず、大学におけるクラス編成に対する応用、テーマパークにおける周遊行動に対するアルゴリズムの開発など、現実社会への適応を意識した研究を行ったと認められる。

今後は、大規模な実問題へ適応することや、企業側の理論理解を促進するフレームワークを実現するため、例えば課題に直面している人材を含んだチーム型の研究を提案するなど、研究成果のさらなる波及を期待したい。その際、現状どの程度の複雑さの問題まで現実的な時間で解けるのかという見通しなどを明確に示すと、より社会への貢献・実装につながると考えられる。